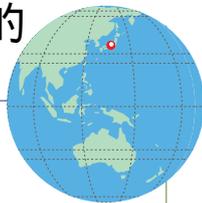


## 琵琶湖各地の伝統的 木造船の調査

主任学芸員（民族学・考古学）  
牧野久実



一昨年度、はしかけの会「丸子船探検隊」を立ち上げ、丸子船をはじめとする琵琶湖の伝統的木造船に関する調査を行なっています。丸子船は近世から戦前までの琵琶湖輸送の主役でしたが、今ではほとんどその姿を見ることができません。

昨年は大津市の堅田や雄琴を中心に活動しました。堅田では丸子船を作ったことのある船大工さんの作業場を訪れて話を伺いました。最近建造したという和船や琵琶湖の木造船模型が所狭しと並べられ、船大工さんの興味深いお話に時のたつのも忘れてしまいました。



た。雄琴では修復されて観光船としてよみがえった最後の現役丸子船に体験乗船しました。修復を手がけた船大工さんや観光船としての復活を試みた元琵琶湖汽船の船長さんの話も伺うことができました。

かつての琵琶湖には、丸子船の他にも百種類を越える形の木造船がありました。最近では、こうした船の風景を再現しようと、船の積み荷などを模型で復元する作業も行なっています。写真や聞き取り調査をもとに、ある程度復元した後、実際にそうした船が使われていた地を訪れてみようと思います。まだまだ謎に満ちた琵琶湖の木造船。「丸子船探検隊」は、みんなで協力しながらそんな謎をひとつひとつ解きほぐしていきたいと考えています。



ピンク色の大きい花、湖面を渡る風に裏返る大きい葉には心癒されます。

ハスの葉は水に濡れないで、水玉ができますね。ロウ質を分泌するほか、表面にある毛茸という小突起が隠しワザ。細長い葉柄（茎）の上の大きい葉は、わずかな重力変化にも傾いて、その水玉をすくに落とします。葉の中心部には荷鼻（かみ）や黄白色斑（はん）という地下の蓮根との通気口があるので、雨水が呼吸を妨げないための巧みな仕組みなのでしょう。

うか。自然は無駄なものを造らないですね。私は、動植物の観察の中から生まれる不思議、彼らとの対話の中から生まれる絵が好きです。ところで、「はしかけ」さんは、誰もが多方面に好奇心旺盛だから、グループ間の交流や発表会を積極的に進めたいですね。また、今年は草津市の、パワフル交流市民21に素晴らしい出前教室をやって頂

き、私自身も博物館と地域との「はしかけ」ができ嬉しかったです。今年度の博物館の企画展示は、植物の動「がテーマ。期待度・大!! ですよ。



## 湾内のハスは夏の風物詩

はしかけグループ「植物観察の会」・「うおの会」・「里山の会」 矢原 功

## 紹介：映画『La Ville LOUVRE (パリ・ルーヴル美術館の秘密)』

### ルーヴル美術館「事件」

数年前、75歳にして初めて海外旅行に出た私の母は、パリのルーヴル美術館で大けがをしました。資料の前で人をさえぎるロープにつまづいて顔から転び、床を血だらけにしたのです。近くにいた監視員に助けを求めたところ、2、3分後、展示室の壁が忍者屋敷のようにパタンとひっくり返り、裏から屈強な男達4人が出てきました。

彼らは軍隊のような重装備で、背中には大きなリュックを背負い、担架も持っていました。ときばきとした応急手当の後、彼らは軍隊のような足並みでルーヴルの裏側に消えました。

### ルーヴル美術館の裏側

最近、ルーヴルの内側で働く

人びとを撮影した『La Ville LOUVRE』(邦題：『パリ・ルーヴル美術館の秘密』)という映画が公開されています。

映画では、ルーヴルには学芸員のほか、電気工事人、金メッキ師、大理石職人、写真家、庭師、物理・化学者など、撮影された1989年当時で1200人が働いているそうです(現在では2200人とか)。そして先のような救護にあたる人は消防士で、21人もいたそうです。映画でも担架をかついで登場してきます。

「ルーヴル村」という原題どおり、ルーヴルの裏側は専門職

化された多くの人がいるコミュニティで、1日に2万5000人の来客を迎える1200人のスタッフは、ルーヴルの住人であるという映画でした。

### ルーヴル美術館と琵琶湖博物館

ひるがえって琵琶湖博物館を見ると、200人足らずのスタッフで、1日に最高1万5000人の来館者を相手にした博物館を運営しています。学芸員も調査、展示作業、資料の整理、電話案内や受付、クレーム対応も仕事になります。けが人が出て、展示室へ駆けつけることもあります。



映画を見て気がついた点も二つ。ルーヴルの学芸員は、男も女もスーツを着こなし、展示の実際の作業は、作業服を着たスタッフに少し偉そうに指示をするだけでした。博物館内の分業化と共に階層化を映画でも感じました。もう一つは、資料の扱い方法。腕時計やネックレス、指輪をしたまま資料を素手で触り、資料の梱包や運搬も手荒でした。展示室には直射日光が差し込み、それを映画の映像演出にも利用していました。

最優秀ヨーロッパアンドキュメンタリーヨーロッパ大賞を受賞したこの映画ですが、休日に京都まで出かけて、琵琶湖博物館での仕事のことを考えてしまった一日でした。

(専門学芸員 用田政晴)